

「コダイゴフツ」——神の視点を持ってない禍

フツ科

危険度：★☆☆☆☆

生息数：★☆☆☆☆

生態

このコダイゴフツはヒラタダイゴフツと近縁であり、近い生態を持つている。容姿もヒラタダイゴフツに近いが、身体面積が狭いのでそのまま小さくしたという印象は受けないかもしれない。身体の器官を見れば近縁であることはすぐに分かる。この禍は人間の「受け入れる」という部分の中でも最も受け入れがたい部分、「死」を受け入れる脳を撰取するのである。この脳は非常に体積の少ない部分であるので、この禍が撰取できるエネルギーの総量は少ない。よってこの禍は非常に小さく、また一人の人間に複数があることもできない。しかし撰取する部分を取り合う競合関係の禍が存在しないため、このような小さく原始的な生態でも生き残ることができているようである。

解説

このコダイゴフツはヒラタダイゴフツのように「与えられたものに抗う」という本能を利用することはせず、また他に脳を非活性化させるような働きも持たない。元より使われることの少ない脳をただ単純に撰取るだけである。

実は人間の「死」を受け入れる脳にもいくつか種類があるが、この禍が撰取するのは「自殺・自滅」を受け入れる脳である。自殺というのは自分の選択によつていつか自殺やそれに近い状況になるであろうという「死に進む」選択そのものことで、この脳は人間の脳の中でも最も働きにくい部分である。これらは「生きてさえいけばいい」という悟りの境地のような人間でも受け入れがたいものである。その理由は当然生きてさえいけなからであるが、ここで「受け入れる」という事象の本質が分かる。「受け入れる」という行為には「条件付で受け入れる」という行為と「無条件で受け入れる」という行為が含まれているのである。

この二つは実際の働きはほとんど同じであるが、この「死」を受け入れる段階までくると大きくその働きが異なる。条件付では「死」は受け入れられないのである。ここで『そもそも「自殺・自滅」を受け入れることは必要なのか?』という疑問にぶつかるかも知れない。実はそれは絶対に必要という

わけではなく、最後まで受け入れれずとも不禍な人生を送ることはできる。ただし、もし自分の大切な人が自殺や自滅の道に進んだ時、それを確実に救うことができるのはこの「死」を受け入れる脳だけなのである。またこの脳は実は他にも根本的な「生」を受け入れる脳と表裏一体である。生きることや死ぬことを受け入れるということは、自分の人生を「誰かから(なぜか)与えられたもの」にしないこと、全ての事象を「誰かが何らかの(自分には分からない)考えを持つて起こしたこと」にしないことなのである。

対処法

コダイゴフツの報告数は非常に少なく、またその危険性も低い。優先的に対処すべき禍ではないが、逆にこの禍への対処のみが残ってしまったほぼ不禍な人間の例は多い。その場合であり、さらに身近に誰か自殺や自滅の道に進む者がいて、それを救いたい場合はこの禍への対処は必要になる。この禍への対処は非常に難しく、少なくとも数年の時間が必要とされている。「条件付で受け入れる」という行為をしてきたことを自覚し、それを限りなく無条件に近づける地道な努力が必要なのである。

